

街なか研究会&全国路地のまち連絡協議会 合同見学会（どなたでも参加できます）

「ジョンソントウンを歩き、路地を語る」

■案内人：磯野達雄社長、磯野章雄氏（磯野商会）、渡辺治氏（渡辺治建築都市設計事務所代表）

■日時：平成 28 年 9 月 11 日（日） 14：00～19：00（解説・街歩き 3hour、懇親会まで）

■会場：14 時集合 ジョンソントウン管理事務所前

埼玉県入間市東町 1-6-1 2（西武池袋線入間市駅から徒歩 15 分）

■参加費：5000 円（内訳：¥1000 プラス 懇親会 ¥4000 予定）

■経緯：1933 年（昭和 8）磯野家（明治屋、麒麟麦酒等の創設）、石川組製糸から農園 20 万坪購入。1939 年陸軍航空士官学校将校のための日本家屋 50 戸建設。1945 年入間基地は米軍ジョンソン基地に。農地改革で大半を失う。1950 年朝鮮戦争 1954 年米軍ハウス 24 戸建設。1978 年基地返還。民間向けに。1996 年磯野達雄氏社長就任、渡辺治氏と出会い、磯野住宅復興開始。2003 年平成ハウス 1 号新築、ジョンソントウンへ改名。

■受賞：平成 27 年度都市景観大賞 都市空間部門 大賞（国交省大臣賞）

ジョンソントウン地区（埼玉県入間市）約 2.5ha ・株式会社 磯野商会（所有及び管理） ・渡辺治建築都市設計事務所

【審査総評 抜粋（審査委員長：陣内秀信）】 大賞を受賞した 3 件は、それぞれ異なる性格を示す景観づくりの優れた成果である。（中略） 埼玉県入間市の「ジョンソントウン地区」は、個人会社がアメリカへの留学経験をもつ建築家と組んで実現した自由な雰囲気と独特の景観をもつしゃれた住宅地で、基地に接した土地の歴史、進駐軍ハウスの建築資産がもつ記憶を受け継いで現代に活かした生活環境、コミュニティづくりの個性的な事業である。 大賞個票：裏面

■集合場所への行き方

池袋 13:00→西武池袋線急行（飯能行）→13:39 入間市駅→徒歩 15 分→ジョンソントウン

入間駅南口よりロータリーを越え、交番先の「けやき通り」を直進。図書館の先の変形四つ角直進、彩の森公園の反対側がジョンソントウンの入り口。国道 463 沿いに位置し、アメリカの国旗が目印です。カフェ・イルキャンティの所で国道より右に入り、駐車場の先が管理事務所前となります。カフェ、しゃれたお店が 55 店。集合時間前にもぜひ楽しんでください。

■参考 URL

H27 都市景観大賞 国交省 <http://www.mlit.go.jp/common/001095244.pdf>

UDC <http://www.udc.or.jp/activities/taisho/h27jusho.html>

公式ページ <http://johnson-town.com/>

FB ページ <https://www.facebook.com/johnsontown1954/>

最近の記事 <http://www.o-uccino.jp/article/archive/kurashi/20160428-johnsontown/>

渡辺治事務所 <http://www.owat.net/owat/profile.html>

◆申込み-----（申込先 jimukyoku@jsurp.jp）

9/11 開催 ジョンソントウン見学会

まち歩き・懇親会 に参加します（参加するものを残して下さい）

氏名：

所属：

連絡先：

携帯（当日の連絡にのみ利用）：

コメント：

■地区名：ジョンソントウン地区

■面積：約 2.5 ha

■所在地：埼玉県入間市

■応募者：株式会社 磯野商会、渡辺治建築都市設計事務所

■地区の概要：

当地区は、入間市（人口約 15 万人）にある、西武池袋線の入間市駅から徒歩約 18 分に位置し、地区の南側は富士見公園に接している。1945 年、戦後 GHQ がそれまでの陸軍航空士官学校を接収しジョンソン基地とし、1950 年朝鮮戦争勃発時、基地増強のために民間に米軍ハウスをつくることを求めた。その時に米軍のためのハウスを磯野商会は製糸会社から取得した農園の一部に、24 戸建設する。基地の返還後も、日本人向けに家を貸していたが、再生にかかる 10 年前までに地区は高齢化、老朽化、荒廃化しており、まるでスラムであった。

約 10 年間にわたり老朽化した進駐軍ハウス 24 棟の改修、保全、非進駐軍ハウスを進駐軍ハウスの DNA を継承する現代の進駐軍ハウスとして「平成ハウス」35 棟を設計・建築し、日本家屋（将校の家）4 棟も改修・保全された。その他、建物の再配置や街路、広場の新設、デザインコードの指針の作成、使用規定の作成、インフラの整備、植樹の整備、文化人の誘致、コミュニティへの活動支援（バザールやイベント）などを行ってきており、結果、130 世帯、約 210 人が住まうようになった。地域にはこだわったお店が 50 ほどに増え、各メディアで報道され、週末に訪れる人が増えている。また、月一回のワンデーマーケットが開催され、地区内外の地域の人たちで賑わっており、文化遺産としても見直されている。

■審査講評：

本地区は、戦後進駐軍の住宅を建設し賃貸運営してきた民間会社が、その後の荒廃・スラム化した困難な状態を克服し、「進駐軍ハウス」という文化遺産を改修・保全して、文化的で魅力溢れる住宅地の景観を生み出した価値ある事例である。留学先の米国でコミュニティを大切にする住宅地づくりを学んだ建築家との出会いから、夢のあるこの事業が実現した。ここには戦前に同会社が建設した陸軍将校用の日本家屋も数多くあった。その一部を現代的なセンスで再生・活用する一方で、老朽化した大半の家屋を取り壊し、進駐軍ハウスの遺伝子を継承しつつ、内部の機能アップを果たした「平成ハウス」を設計・建設し、景観上の一体感がある日本離れした洒落た住宅地の町並みを創り出した。進駐軍ハウスは、内部のトラスを残しつつ、現代的な空間にリノベーションされる。アメリカ風の自由で文化的な雰囲気に惹かれた家族が集まり、独特のコミュニティが生まれている。戸建て住宅の間に柵がなく、路地の外部空間は交流の場や子供の遊び場となる。大規模開発による街づくりとは対極にある、このような土地と建物の記憶を大切にしたい小規模で顔の見える景観づくりの努力を高く評価したい。（陣内）



当地区は、西武池袋線の入間市駅から徒歩 18 分、当時の米軍のゲートの前に位置する。奥の公園は地区の南側の富士見公園。かつての農地解放で接収された土地である。



屋根の構造を 2×4 構造とし、屋根裏部屋に住むことができ、床暖房がある「平成ハウス」。米軍ハウスの小屋組みはトラス構造であったため、屋根裏に部屋をつくることができなかった。屋根裏部屋に住んで店を持つことができ、借家であるが、内装を自由にしてもよいとしている。



約 60 年前に建てられた米軍ハウス、この地区には当時の米軍ハウスが 24 軒残っており、全てが改修・保全され、使われている。この棟は写真スタジオとして使われており、改修に 1 年以上かけられた。



街路の左が新築の平成ハウスの町並み、右が米軍ハウスの町並み、右手前がセキスイハイムの 2 階建ての 2 階部分を撤去し、外装内装を改修し、米軍ハウス風に作り替えた棟。いずれも白で統一され、屋根の傾斜も合わせてある。